

むくらむくら

令和 4 年 12 月 1 日発行

第27号

社会福祉法人桜友会

児童心理療育施設 桜学館

〒501-3932 岐阜県関市稲口 777 番地 1

Tel 0575-24-0050 Fax 0575-24-0051



ごあいさつ

桜学館施設長 児玉 俊郎

3 年前に桜学館の施設長になり 3 年目もあとわずかになりました。就任当初はコロナの感染でバタバタ状態でしたが、いまだにコロナ対策に気を遣わなければならない状況にあります。桜学館としては 6 月に 2 人の子どもと 5 人の職員が感染しましたが、職員が一体となり乗り越えることができました。その後は、10 月に高校生が 1 名感染しましたが現在は収束し、子どもたちも今までにないスポーツとして職員や分級の先生方を交えてサッカーを毎日やっております。

今年度は、新館（分園型小規模ユニット）を立ち上げ新たな取り組みを始めております。少しずつではありますが子どもも職員も新館の生活に慣れてきております。本館と少し離れた場所にあるため連携をとることが困難なところもありますが、職員が本当によく動いてくれており施設長としても非常に助かっております。わたくしも、毎日子どもたちの登校支援を行っております。小学 3 年生の女の子と手をつなぎながら登校しております。同じ三年生の男の子も羨ましいみたいでした。分級の入り口でその子どもも含めてすべての子どもに挨拶をしながら関わりを持っております。男の子もうれしいのか、遠慮も少し取れてきたのかわたくしの手を掴んできて一緒に登校したりしております。私の一日のエネルギー充電時間です

10 月 26 日・27 日は、全国児童心理治療施設職員研修として心理治療部会を桜学館担当で開催することができました。コロナ感染予防もありハイブリット形式で行い、研修会担当の心理士たちも慣れない中研修会を成功させることができました。35 名の方々が施設見学もされ、様々な意見交換をすることができ、今後情報交換を行いたいなどの意見も出されとても有意義な研修会を行うことができました。これを機会に職員の資質向上を目指していききたいと思います。

笑顔が一番！  **笑顔が生まれる安心を！**

<これからの課題>

※子どもたちの笑顔を見るために、大人のネットワークづくり。（福祉と教育と医療）

※子どもたちに寄り添えるための力を職員とともに学び続けます。（アセスメント力）

※子どもたちに関わっていただける仲間を募集しております。（文化活動・学習支援など）

1.子ども一人ひとりにしっかりと向き合い、ひとりひとりの自己実現に向かって共に支援を行います。

2.子ども一人ひとりの成長・発達を願い、子ども一人ひとりに相応しい環境設定を行います。

3.子ども一人ひとりの命を大切に、子ども一人ひとりの家庭復帰を目指した地域支援を行います。

4.子ども一人ひとりの思いに耳を傾け、子ども一人ひとりを主体者として支援を行います。

風ユニット

なんと風ユニットの子たちはみんな温かい、暑い時期に生まれた子がばかり。
これからの寒い時期には誕生日会がありません!!

でも、みんなでおいしいごはんを作って食べたいっ!! これまで誕生日、野外
カレー作り、中学生の夕食作りをしました。恐る恐る包丁を握る子、得意
料理を披露してくれる子や職員と調理と食事を楽しんでいます。

また、暑い夏には久しぶりの遠出。牧歌の里へ。もの作りにチャレンジしたり、
動物とのふれあいに笑顔あふれる時間でした!!



星ユニット



星ユニットは結成してから1人が退所をし、2人が加わり子ども5名で生活をして
います。それぞれの得意なこと、やりたいことを生かして、ユニットの装飾をし
たり、お菓子作りをしたり、外出に行ったりしています。色々なことが起きる毎日
ではありますが、少しずつお話ができるようになったり、思ったことをグッと我慢で
きたり、子どものできるが少しずつ見られることもあり、職員もそれに元気づけら
れ毎日を頑張ることができています。

光ユニット

4月より走り出した光 Express。途中乗車で子どもの数が増え、現在は大人6人子ども8人で満員となりました。地球を出発し、火星、木星、土星、天王星を通過し、海王星を目指して運行中です。

道中は、新しい人や環境に戸惑い、時には子ども同士のトラブルが発生し、運転を見合わせることもありました。野菜を育て、田植えをし、育てたものを使って調理をして、食のありがたみを知ったり、川遊びや釣り、山登りや宿泊キャンプで大自然の豊かさを知ったり、たくさんの思い出と経験を積み重ねることが出来ました。経験はさらなる挑戦を掻き立て、子どもたちの可能性も宇宙のように無限に広がっています。

ゴールはまだまだ先！光 Express が無事に終点までたどり着けるのか、乞うご期待！！

もう少しで折り返し地点
最後まで燃料は持つか？！



1か月で急成長！

大自然の中では
大人も子ども
純粹になれる！



作った野菜で
カレーを作ったよ♪



空ユニット

自由調理、水鉄砲遊び、BBQ、岐阜市科学館への外出…日々の生活を送る間に、様々な非日常的な楽しい体験をみんなと共有してきました。

中でもトランポリンは、月に1度継続して行うことで、子ども達が楽しく遊びながら体幹を鍛えることができており、跳ぶ技も楽しく覚えることで、心も体も少しずつ自信を持って成長できています。

「継続は力なり」

今後も、子ども達が感じた様々な体験が、子ども達自身の力になるような日々を過ごしていきます。



桜学館分級のあゆみ

やりきった小中合同文化祭

令和4年11月16日(水)に、桜ヶ丘小中分級文化祭が開催されました。今年度のスローガンは、『一生懸命～笑顔と協力～』です。小中合同発表は、『ビリーブ』の手話を行いました。限られた練習期間の中でも一体感が伝わるように、手を挙げる向きや手を大きく動かす所等は揃えるようにと、気持ちを一つにして頑張りました。

小学生の部



小学生は、リコーダー『パフ』『オーラリー』『威風堂々』の演奏、SDGsの学習発表、ダンス『KICK&SLIDE』の披露をしました。

休み時間にもリコーダーやけんぱんハーモニカ等の自主練習に取り組み、綺麗な音色を奏でることができました。

総合的な学習の時間に調べたSDGsの発表では、相手が聞き取りやすいようにゆっくりはっきりと話すことを意識し発表しました。

ダンスでは、自分たちが踊るのを本気で楽しみ、キレのある動きを見せることができました。

一人一人が精一杯の力を発揮し、文化祭を大成功させることができました。

また、授業で取り組んできた図工作品や書写、社会科新聞等の展示を見てもらい、お客さんに楽しんでいただきました。



中学生の部



中学生発表では、学年合同でのバンド演奏を行いました。楽器を演奏するのは、ほぼ全員が初めての経験で、自分の興味のある楽器、やりたい楽器を決めるところからスタートし、一生懸命に楽譜を見て何度も何度も、繰り返し練習に取り組みました。始めたころは、「楽譜は読めない、手の動かし方が分からない」など、くじけそうになる場面もありました。しかし、周りの仲間が諦めずに練習している姿を見て「自分も頑張らなくちゃ！」と励みにして、練習を重ね全体で合わせようと努力する姿へと成長していきました。「今まで練習してきてよかった」と思える文化祭本番となり、よい経験になりました。

分級太鼓では、先輩方の伝統を引き継ぐことができました。

太鼓の経験のある生徒が初めての生徒に教える姿が見られました。

また、放課後に補習を申し込み、練習を繰り返し行うことで、演目「分級太鼓A」だけでなく、Aより難易度があがる演目「分級太鼓B」にも挑戦し、全員の力を一つにして発表することができました。コロナ過において久しぶりの文化祭という場で、成功に終わることができ、一人一人にとって良い思い出となっていることを願います。



わおん大賞



『未来の自分に宛てた手紙』『今年頑張っていること』をテーマに書いた作文の表彰を、文化祭の中で行いました。誰が選ばれるかわからない中、「自分が選ばれますように」と願う姿がありました。呼ばれた生徒は、登壇し、ステージ上で賞状を受け取りました。その後、受賞者は自分の作品を堂々と読み上げることができました。今頑張っていることを続け、さらに、自分たちが描いた『未来』『将来』に一步でも近づけるよう、これからの生活に磨きをかけていけるといいですね。

～レクより～



今年の夏のお楽しみ会は職員中心に準備を進め、ミニゲームやくじ引き、ヨーヨー釣りなどを楽しみました。コロナ感染対策としてかき氷は外にテントをたてて、食べるブースを作りました。職員が本気で制作した謎解き脱出ゲームや、前々から練習していた出し物も子どもたちには大好評で、大盛り上がりの会となりました！



10月に行われた秋フェスでは、子どもたちが秋らしい体験を出来るよう企画しました。お昼ごはんには厨房の方に協力をいただき、秋の味覚がたくさん入ったカレーを作っていただき、午後からはハーバリウムボールペン作りやフェルトボールコースター作り、そして思い切り身体を動かせるよう全力戦闘クラブを行いました。食慾・芸術・スポーツの秋を堪能しました。



新人スタッフ紹介



松下郁美（児童指導員）

8月から入職しました。子どもと信頼関係を築きながら、子どもに寄り添った支援が出来るようにしたいです。よろしくお願いします。



子ども家庭支援センター「とも」より



朝の肌寒さに、つつい布団に長居したくなってしまう季節がきました。外で元気に遊ぶ桜学館の子どもたちの姿を見ると、大人も寒さに負けずに過ごそう、という気持ちになれます。ともには8名の職員がおり、電話や来所、家庭訪問など様々な形で子育てに関する支援や、里親さんへの支援を行っています。子育ても支援も、どちらも「完璧」や「絶対的な正解」が無いからこそその難しさがあります。子どもたちやご家族が各々のペースで成長していくのと同じく、支援者もより良く成長し続けていきたいです。今後も、地域の子どもたちやご家族の持つ力を大切に応援しながら、地域に根ざした支援活動を行って参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

（加藤 清美）

編集後記

コロナ禍が続いている現状ですが、感染対策を充分に行いながら、夏祭りや秋フェスなどの行事を行いました。心がこもった出し物、職員が懸命にイベントを開催する姿を目の当たりにして、子ども達から「楽しかった」「暖かい雰囲気を感じた」などの感想が聞かれました。

株) ミエライス様からお米、ココ壺番屋様からカツレツの寄付、赤い羽根共同募金様からニンテンドウスイッチ、ブルーレイプレイヤーを頂きました。子ども達は美味しいご飯とカツレツを食べて大喜びでした。そして大好きなゲームは毎日のお楽しみ時間となっています。



また中部学院大学の学生さんや新日本フィルハーモニー様によるボランティア演奏会が開催されました。生の演奏を聴く貴重な機会に恵まれたことに感謝いたします。日頃から皆様のご支援、ご懇意に桜学館が支えられていることを実感しております。

12月に入り、寒さもいよいよ本番を迎えます。皆様もどうぞ良いお年をお迎えください。

広報紙「さくらさくら」へのご意見、ご感想を寄せてください。

（E-Mail：sakura@hohoemi.or.jp）広報委員 川治・清水